

TOKYO FM 『いのちの森 voice of forest』 「瓦礫を生かす森の長城プロジェクト」理事長 細川護熙 とともに 森と生きるライフスタイルを提案

古来から、わたしたち日本人は、森とともに生き、森に守られて暮らしてきました。神社の周りに鬱蒼と茂る木々たちを「鎮守の森」と呼び大切にしてきました。いま、そんな森の素晴らしさが見直されています。

阪神淡路大震災では、鎮守の森の木が倒れずに火を防ぐ役割を果たし、東日本大震災では、地面の奥深くまで根を張った森が、防潮林の代わりになり、津波から人々の命を救いました。

そしていま、森によって震災復興をめざす「瓦礫を生かす森の長城プロジェクト」が注目を浴びています。

TOKYO FMをはじめとする全国38局ネットでは、この「瓦礫を生かす森の長城プロジェクト」と協働して、「森とともに生きる暮らし」を、番組やイベントを通じて呼びかけていきます。

●「瓦礫を活かす森の長城プロジェクト」とは

東日本大震災で発生した「瓦礫」を、ただ焼却処理するのではなく、未来の人が津波被害を受けないようにするための“防潮堤”として有効活用しようとする取り組み。瓦礫でマウンド(盛り土)を作り、そこに東北地方の自然植生である、タブノキ、カシ、シイなどを植樹します。これらの木は垂直に根を下ろす特徴があるため、瓦礫のマウンドをがっしり包み、さらに地下深くまで根を張って、丈夫な「防潮林」となります。プロジェクトでは今後、東北の太平洋岸、総延長 300km にわたって 9000 万本を植樹する計画です。



瓦礫でマウンド(盛り土)を作ります



●番組「いのちの森 voice of forest」(10/7 より放送中)

◇タイトル: 『いのちの森 voice of forest』

◇放送時間: 日曜日 7:30-7:55 (JFN38 局ネット※時間違い)

◇出演者: 高橋万里恵、細川護熙

◇番組内容: 「瓦礫を生かす森の長城プロジェクト」理事長である細川護熙とともに、森と生きるライフスタイルを提案します。プロジェクトの意義や活動報告をお伝えするとともに、各界の著名人が森の魅力を語るスペシャルメッセージを紹介していきます。さらに、CWニル(エッセイスト)、田部井淳子(登山家)、野口健(登山家)など、森と深いつながりをもつ著名人に、森の奥深い魅力を語って頂きます。

●プロジェクトの活動～「どんぐり拾いイベント」がスタート

これからの季節は、植樹するポット苗を作るために、シイ、カシ、ブナなどの「どんぐり」を拾う活動が始まります。

11月9日～11日には、仙台平野で、一般ボランティア 200 名が参加するどんぐり拾いイベントを実施し、理事長である細川護熙、番組パーソナリティの高橋万里恵も参加して 50 万粒を収集する予定です。



細野環境大臣と細川護熙理事長
2012年4月30日に行われた
岩手県大槌町での植樹の様子